

平成 28 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	平成28年4月28日(木)	時間	13時45分 ～14時15分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 竹中委員長(伊丹市医師会会長)、末岡委員(宝塚市医師会会長)、木村委員(三田市医師会会長)、森田委員代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、安達委員代理として千葉委員(伊丹市薬剤師会副会長)、柳田委員(伊丹市消防局長)、坂本委員(伊丹市健康福祉部長)、西本委員(三田市健康福祉部長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、平塚委員(市立伊丹病院院長)、関委員(市立伊丹病院副院長)、大迫委員(市立伊丹病院看護部長)、米倉委員(市立伊丹病院事務局長)</p> <p>委任状： 藤末委員(川西市医師会会長)、黒田委員(尼崎市医師会会長)、清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、酒井委員(宝塚市健康福祉部長)、根津委員(川西市健康福祉部長)</p> <p>オブザーバー： 山本(市立伊丹病院副院長)、筒井(市立伊丹病院副院長)、三木(診療部長)、萩原(放射線科主任部長)、太田(歯科口腔外科主任部長)、清田(医療技術部放射線担当技師長)、五十嵐(薬剤科長)</p>				
議題内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>市立伊丹病院は支援病院として紹介患者の報告、救急医療の実施、開放病床共同利用の実施さらには医療従事者に対する研修の実施、この大きな4つの役割を持って運営されている。報告いただくので忌憚のないご意見をお願いしたい。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。 本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第2条ならびに第3条による公開となっておりご案内したが傍聴希望者は無。 ・本委員会は議事録作成のため録音している。 ・会議録の記載内容回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し。 第18条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開。</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2名)</p> <p>・竹中委員長より指名 飯田委員、柳田委員に依頼したい。両者共に了承。</p> <p>■ 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 紹介患者に対する医療提供について <ul style="list-style-type: none"> 資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤に従って説明 平成27年度地域医療支援病院の紹介率は65.2%、逆紹介率は106.6%で承認要件を満たしている。 				

平成 25 年度から平成 26 年度にかけては減少、平成 26 年度から平成 27 年度にかけては増加しているがこの原因についてお聞きしたい。

→ 算定要件が変更になったことが原因。一旦減少したが、その後は増加傾向。紹介率は減少しているが、こちらについては、院内の取り決めで放射線科の初診を算定しなくなったことが原因と思われる。

2) 救急医療の提供について

資料 2 に従って説明。

お断り件数について

→ 一昨年度は 1500 件ほどお断りをした。昨年度は 1000 件、500 件の差に対する要因は毎月の件数は顕著に下がっていないが、一昨年度と昨年度のお正月を比較すると 200 件ほど下がっている。また、一昨年度と昨年度のゴールデンウィーク 200 件ほど下がっている。要因について調査しているがまだはっきりしていない。

救急車の医療機関での適正使用について

→ 患者さまから来院方法について相談があれば、症状をお聞きし救急車以外の手段でも可能な状態であれば救急車以外での来院を提案している。転院で使用することもあるが、状態により介護タクシー等での対応が可能であれば救急車以外の手段で搬送している。また、当院は病院の救急車を所持しており当院の救急車で搬送も行っている。

→ 1 年間の救急搬送数は約 9600 件で、ほぼ 1 割が伊丹市内にある病院からの転院での利用である。今年度から救急車も増車し、1 台を転院プラス直近の救急搬送として対応しているが、転院搬送が増加している状況ではない。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明。

前回の委員会でも院内参加人数に対して、院外の参加人数が少ないと意見が出たが、改善策として新たな試みはあるか。

→ 研修者に対する項目数の見直し、また、内容の見直しを行い参加の方を促していきたい。公開できるような研修をもっと増やすべきではという意見もあるので内容を踏まえて検討していきたいと考えている。

研修の場を院外、地域医療機関へ出向き実施されたことはあるか。

→ 現在のところ実施していない。検討していきたい。

4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明。利用率は年々減少しているが算定要件の 2 割以上は満たしている。

この開放病床利用率は他病院と比較してどうか。

→ 病院によって差があり、6%の病院もある。当院は平均ぐらいかと判断している。

5) その他

病院へのクレームの件数とその対応について

→ 投書箱を設けておりカウントしている。また、口頭によるクレームや要望もカウントし対処しているが明確な件数は即答できない。

単なるクレームと要望を分けて対応したらよいのではないか。

→ 善処していきたい。

■ 閉会のごあいさつ

本日ご多忙の中、市立伊丹病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございました。

地域医療構想策定ガイドラインが平成 27 年 3 月に厚労省から発出されましたが、その中に兵庫県の 2 次保健医療圏域が実情に応じて柔軟に対応している例として図示されており驚かれた方も多いかと思います。

とくに阪神北が目立っており心筋梗塞と脳卒中は阪神北と丹波を1つの圏域にしている、また、小児救急と周産期医療は阪神北を二つに分け、一部を神戸に一部を阪神南に統合したと紹介され、阪神北だけが有名になったのではないかと思います。決して喜ばしいことではなく、阪神北圏域の抱える複雑な状況の現れだと思っております。

この地域医療構想策定にあたり、阪神北圏域では本日ご出席いただいている宝塚市医師会会長の末岡先生が部会長を務めておられ、昨年9月から今年の2月までに4回開催されました。そして阪神北圏域における現状と課題、具体的な施策がまとめられました。お疲れさまでした。

ただいまお配りさせていただいたのは、兵庫県のホームページで公開されているもので、手書きの一番下書いておりますように今年の3月14日開催された第20回兵庫県医療審議会保健医療計画部会の資料です。この審議会が、兵庫県の地域医療構想を策定する場で、第19回は今年の8月に開かれていますので7ヶ月ぶりの開催となっています。平成37年の必要病床数について3つの表が示されていますが、一番上の表が昨年9月の第1回の北圏域委員会で承認されたものです。都道府県間の患者流出入を勘案せず兵庫県内のみ流動の推計値が承認されたということになります。左の手書きで書いております平成26年7月に申告した数を県がまとめられたものですが高度急性期が25、急性期が3461、回復期が391、慢性期が2815という数字です。

昨年9月に厚労省が都道府県間の患者流出入ルールを推計に追加し、12月の委員会で示されたのが真ん中の表。ここまでは聞いていました。3つ目の表は、県のホームページで初めて知ったのですが、阪神北については、高度急性期が497、急性期1890で1つ目、2つ目の表に比べてさらに減っています。阪神南に比べて慢性期が多く、回復期が少ない。当院はICU5床と外科・脳外科病棟の49床合計54床を高度急性期としています。2025年必要とされる阪神北の高度急性期の11%を占めますが、さらに増やさなければと考えています。

阪神北の急性期医療を確保するために何をすべきか、公立・公的5病院の意見交換会が昨年11月に宝塚健康福祉事務所が中心となり、県医務課が参加し開催されましたが、具体的方策の意見は得られませんでした。末岡先生が部会長をされている委員会は組織が大き過ぎ細かいことが相談できない、また、11月の会では小さすぎると感じております。

今後、当院は、高度急性期、急性期として頑張っていきたいと思っておりますので、阪神北圏域としてどうしていくかは公立・公的5病院だけではなく、枠を広げた場で検討していく必要があると思っておりますので適切なアドバイスをいただければ幸いです。

■ 謝辞

竹中委員長、委員の皆様、本日はありがとうございました。当院の医師は126名に増えました。しかも若い医師が増えたので活気が出てきたかなと私自身感じております。産婦人科も11月30日から出産を開始し、現在79例ですが、そのうち帝王切開が20例と高く、手がかかるケースが多いため、医師数はそれほど多くはないので無理をせず出発と言っております。ご理解いただければと思います。来年度からは専門医制度がどうなるか問題になっているところですが、当院は幸い、内科は専門研修基幹施設になることができそうなので内科としてかなり頑張れるのではないかと思います。ただし他の診療科では連携施設として今まで通りであると思っております。

一番心配していることは院長が言ってくれましたので、皆様とお話ししながらいい方法を見つけたいと難しいと思っております。昨日、県立西宮病院と西宮市立中央病院の会議に委員として参加してきましたが、北圏域と南圏域を比べると南圏域の方が圧倒的に県からお金を出しているのに、北は十分ではないとのご意見をいただく方がおられました。私自身うれしかった訳です。院長が話したとおりですので、今後の課題として北圏域をなんとか良いようにしていきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いたします。

本日はありがとうございました。

別紙のとおり「平成 28 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者

平成 28 年 5 月 20 日

中 秀 天



別紙のとおり「平成 28 年度第 1 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 平成 28 年 5 月 23 日

柳 田 尊 正



議事録署名人 平成 28 年 5 月 26 日

飯 田 良 治

